

「子供の森」計画

Children's Forest Program



©LAYUP

2012年の活動と2013年の展望

子どもたちが学校や地域で苗木を植えて育てていく活動を通じて「自然を愛する心」や「緑を大切にする気持ち」を養いながら地球緑化を進めていく「子供の森」計画。活動21年目となる2012年は、4つの国と地域が仲間に加わり世界32の国と地域に活動の輪をさらに広げました。また、子どもたちの活動内容も近年の環境問題や地域の要請に合うよう、自然と人間の関わりを深く学ぶために有機農業等の循環型の生計活動を組み込んだり、ゴミ問題に取り組みんだりと多岐にわたる環境保全活動を展開してい

ます。2012年は、バングラデシュ、カンボジア、フィジー、インド、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、パプアニューギニア、スリランカ、タイ、中国を重点的に事業を支援・展開する国として、各国各地域のニーズに基づき子どもたちそして地域の人々とともに活動を実施しました。これからも多くの国で、自然と人とのつながりを考え行動できる人づくりをさらに進めて、豊かな村づくり・ふるさとづくりにつなげていきたいと考えています。ご協力よろしくお願いいたします。

NEWS 2012 ピックアップ

- ◆2012年3月 フィリピン政府（環境天然資源省、教育省、国家ボランティア調整局、農業省）との協約を更新
台湾で「子供の森」計画スタート
- ◆2012年4月 アメリカ合衆国で「子供の森」計画スタート
- ◆2012年5月 5カ国の子どもたちを日本へ招聘した「子ども親善大使事業」実施（子どもたちによる世界子ども会議や学校訪問、交流会、報告会等の実施）
- ◆2012年6月 国連持続可能な開発会議（リオ+20）のサイドイベント等にて、「子供の森」計画の子ども代表によるメッセージ発信
- ◆2012年6月 アラブ首長国連邦で「子供の森」計画スタート
- ◆2012年6月 アルゼンチンで「子供の森」計画スタート
- ◆2012年10月 国連生物多様性条約第11回締約国会議（COP11）のサイドイベントで「子供の森」計画のグリーンウェイブ等の取り組みが高く評価を受ける



子どもたちの活動を支援して下さる方を募集しています。
ご支援や各地域の子どもたちの活動の様子はこちらから

ベルマークや書き損じはがきも募集しています。

ベルマークは1点1円として「子供の森」計画の支援となります。
事務局までお送りください。

➡ 「子供の森」計画情報提供サイト
www.kodomonono-mori.info



事務局

公益財団法人
オイスカ

〒168-0063 東京都杉並区和泉3-6-12

☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111

E-mail oisca@oisca.org

<http://www.oisca.org/>



乾燥した大地で続く子どもたちの挑戦

2008年より活動をスタートさせた中国・内モンゴル自治区と2010年よりスタートさせたモンゴル。ともに乾燥した大地への植林活動の難しさに直面しながらも、子どもたちと一歩一歩活動を進めています。中国・内モンゴル自治区では、オイスカの阿拉善沙漠生態研究研修センターで砂漠の緑化の研究を進めながら、子どもたちの環境教育や体験の機会として「子供の森」計画を推進しています。子どもたちは、センターで研究された保水材を使った植林手法や、ソウソウという低木を植え砂漠の砂の風などによる流動を防ぐ手法などを、実際に体験しながら学んでいます。

またモンゴルでは、オイスカの日本で農業研修を受けた研修生修了生たちが力を合わせ「子供の森」計画を実施しています。地元の自治体などにその必要性を訴え協力を得たり、木と木の間を水が流れるように溝を掘りながら植樹

を進めたりと一歩一歩活動を進めています。

両地域とも厳しい自然環境の中ではありますが、これからもあきらめることなく、緑化活動を進めていきたいと考えています。



ソージャという乾燥に強い木を植える(中国内モンゴル地区)



乾燥を防ぐためたっぷり水をあげるよう指導するコーディネーター(モンゴル)



南米アルゼンチンでも「子供の森」計画がスタート!

アルゼンチンにおける最初の活動は、2012年6月25日、同国北部ブラジルとパラグアイに国境を接しイグアスの滝に通じるミシオネス州のアルゼンチン拓殖協同組合の土地にて行われました。近隣の小学校、中学校など計11の学校から50人の子どもたちが集まり、ラパチョなど5種類の郷土樹種の植林を行いました。地元行政からも協力を得ることができ、州政府の外務副大臣や自治体の代表、そして隣国パラグアイのイグアス日本人会のメンバーなども応援に



植林は初めての経験と地元の子供たちは大喜び

駆けつけました。アルゼンチン拓殖協同組合は、同国への移住を希望する日本人の便宜を図るために設立された同国政府公認の日系組合です。同組合の

「親と子が自然とのふれあいを学べる場所をつくりたい。そして未来に大切な自然を残し、日本とアルゼンチンの絆をつなげていきたい」という強い願いが今回の活動実施へとつながりました。

今回の植林はグリーンウェイブ2012の一環としても行われ、参加学校へはオイスカと国連生物多様性条約事務局が連名で発行するグリーンウェイブ参加証書も授与されました。



植林地の鳥居型の記念モニュメントの前で記念撮影



赤土で手が真っ赤になりながらも一生命植えました

TOPICS

20周年を記念し5カ国の子どもたちが来日

2012年5月、前年に事業開始20周年を迎えたことを記念し、5カ国から子どもたちの代表2名を招聘し、合同会議や交流活動などの10日間のプログラムを実施しました。波の浸食から村を守るためにマングローブを植えているフィジー、ゴミ問題解決にも積極的に取り組んでいるインド、学校全体で環境教育に力を入れるインドネシア、広大な山に緑を取り戻そうと長年活動を続けているフィリピン、草木染めや木工アートなど森の恩恵を積極的に勉強しているタイ。それぞれの特徴ある活動の情報を交換し合った子どもたちは、これから先仲間として、環境や自然を守るために想いを同じくして活動をしていくための絆を深めたようでした。



来日した子どもたち。民族衣装も披露した

子どもたちの活動の様子や国情の一部を紹介しています。

他のレポートや地域の情報はホームページをご覧ください。



OISCA CFP

検索